

NPO 地質情報整備活用機構 企画 特別シンポジウム
「ジオパークを考える ー地方創生という視点からー」

会 長 挨拶 (H28.11.18 大島洋志)

会長の大島です。 私たちのNPO法人は、日本におけるGeo-Park活動に初期のころから関与し、日本Geo-Park Net Workの創設に深く関わりました。本年9月熊本で開催された全地連フォーラムの特別講演で糸魚川市の米田徹市長が**Geo-Park活動とまちづくり**と題して町おこしにGeo-Parkを活用しておられる話をなさいました。糸魚川は日本Geo-Parkの認定後、世界Geo-Parkにも認定され、今日に至っているのですが、当NPO法人の第二代会長の岩松先生にお世話になったと、何度も紹介されていたのが印象的でした。

昨年、Geo-Parkはユネスコの正式事業となり新しい局面を迎えています。こうしたことから当NPO法人としてGeo-Parkの活動に地方創生という視点から今後どう関わっていくのかを議論することを目的として今回のシンポジウムを企画いたしました。

私事ですが、今月の一日に、中央新幹線の南アルプストネルの安全祈願祭と起工式が長野県大鹿村で開催されました。このプロジェクトに四十数年関わり続けてきた私も出席しましたが、その時立ち寄った大鹿村の施設に日本Geo-Park委員会の尾池和夫会長名の認定証が飾ってあることに気がつきました。

実はその一週間ほど前に国鉄時代の同期十数名と一緒に伊那谷の木曾駒ヶ岳千畳敷カールの紅葉狩りに行き、翌日、**ゼロ磁場**で有名になった中央構造線が走る秋葉街道の分杭峠やその断層露頭を見学し、トンネル工事事務所も訪問したのですが、その時は、中央構造線一帯が日本Geo-Parkに認定された**正会員43地域**の一つ、山梨・静岡・長野三県に跨がる**「南アルプス」**の一部であることを知りませんでした。今回、このシンポジウムの開催を機に調べて分かったこととして、素晴らしい眺望に感激した木曾駒ヶ岳の方は残念ながら**準会員14地域**の一つ**「中央アルプス」**であるということも同時に知りました。

我が法人が「地方創生」という視点でGeo-Parkに取り組むに際しては、Geo-Parkが備えているべき**6つの要件**に新に加えられた**「地質災害に関して社会と知識を共有するためにGeo-Parkが役に立つ」**という条項を、特に忘れてはならないと思っております。

先に紹介しました長野県大鹿村には**中央構造線博物館**があります。これは6つの要件のうちの4番目に掲げられたものを満足する施設であります。そのすぐ横は、今から55年前の昭和36年の梅雨時の豪雨で**構造線の西側にある大西山**が深層崩壊を起こし、約60名の方が亡くなられた被災地です。そこは現在は被災された方々を慰霊する大西観音が祀られた桜のきれいな公園として整備されておりますが、いまでも当時の惨状を偲べる生々しい**いきずあと**が残っておりまして、新に加えられた**「地質災害」**というKWを痛切に感じることのできる公園であると思えます。

我が日本は、**豊葦原の瑞穂の国**といわれるほど、自然豊かな肥沃な国土であるといえませんが、一方で地震や火山噴火、豪雨・強風などの自然災害に常に晒されている国土でもあります。こういう厳しい自然災害環境にあるからこそ、我が国は常に新鮮さを保ち続けることができているのかもしれませんが。日本の国土は、自然災害とも仲良く付き合いながら共生していかなければならない宿命をもっている、と認識しておく必要があると思います。

そういう観点からすれば、地圏・水圏・大気圏に関わる地球の科学である地学の素養は日本国民必須の常識であるべきです。しかし、実態は理想とはほど遠い状況であります。我が NPO 法人は、この理想の実現に向けた環境作りが必要であるとの観点から、**Geo-Park** の地方創生に取り組んで行けたらと願っております。

やや難しい話になりましたが、お許し下さい。今日のシンポジウムにご参加の皆さまにとって有意義なものになることを願ひまして、私の開会の挨拶といたします。

ジオパーク Geo-Park とは 以下のように定められています。

- 地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
- 公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。
- ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。
- 博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。
- それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。
- 世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。

これらに加えて防災への取り組みも重視されるようになっていきます。2008年6月にドイツのオスナブリュックで開催された第3回ユネスコ国際ジオパーク会議では、会議の終わりに採択された宣言に、「**地質災害に関して社会と知識を共有するためにジオパークが役に立つ**」という趣旨の一文が盛り込まれました。